

2025 年高麗博物館企画展

なぜ「朝鮮人」が戦犯になったのか

戦後 80 年を迎えてなお続く植民地主義を問う

〈講演会〉

朝鮮人捕虜監視員が動員された日蘭戦争を考える

6 月 14 日(土)14:00～ 講師:小塩海平さん(東京農業大学教授・農学博士)

小塩さんは、20 代の頃から韓国・朝鮮人 BC 級戦犯者支援運動に加わり、元戦犯者やその家族、捕虜・抑留者との丁寧な交流と調査を続けてきました。

著書に『BC 級戦犯にされたキリスト者』(2022 年いのちのことば社)、共訳『忘れられた人びとー日本軍に抑留された女たち・子どもたち』(1998 年梨の木舎)、共著『農学と戦争ー知られざる満洲報国農場』(岩波書店) ほか。



要予約

参加費:1000 円

会場参加・オンライン参加
(後日配信を含む)

お申し込みは

ホームページから



〈 小塩さんからのメッセージ 〉

「オランダと日本は、長い友好の歴史を持っています。しかし、日本とオランダが戦争をしたことは、あまり知られていないのではないのでしょうか。日本は 3 年半にわたってインドネシアを占領しましたが、そこに住んでいたオランダ人の女性や子どもは収容所に隔離され、男たちはジュネーブ条約に反して捕虜として泰緬鉄道や飛行場の建設に駆り出されました。大量のオランダ人捕虜が病気や飢餓、苛酷な労働で亡くなり、終戦後 80 年経った今でも、毎月、オランダの日本大使館前で日本の道義的責任を追及するデモが行われています。そのような大量の捕虜たちを監視するために動員された植民地出身の青年たちが戦犯裁判で裁かれ、日本の戦争責任を肩代わりさせられた事実は、さらに知られておりません。私たちは、戦争や差別が無関心によって生み出されることを知っていますが、今回、日蘭戦争について、韓国／朝鮮人戦犯についてともに学ぶことにより、少しでも私たちの無関心体質を変革できればと願っています。」

6 月のギャラリートーク

入館料のみ 予約不要



6 月 22 日(日)14:00～

ゲスト:

朴來洪(パクネホン)さん

同進会の現会長である朴來洪さんが鄭理恵子夫人と共に、父親である朴昌浩(パクチャンホ)さんの生き方や遺された言葉、そして元戦犯者の「おじさん」たちとの思い出などを語ってくださいます。

入館料:一般 500 円 高校・大学生・30 歳未満 200 円 中学生以下無料

市民がつくる日本コリア交流の歴史博物館
高麗博物館
고려박물관 KOREA MUSEUM

169-0072 東京都新宿区大久保 1-12-1
第 2 韓国広場ビル 7 階
TEL 03-5272-3510 FAX 03-3207-0533
E-mail: kh@kouraihakubutsukan.org
<http://kouraihakubutsukan.org>



アクセス